

第一日曜日  
主日第一礼拝 9:00～  
主日第二礼拝 10:30～  
その他の日曜日  
教会学校 9:00～  
聖書を読む会 9:00～  
主日礼拝 10:30～

# 日本基督教団 麻布南部坂教会月報

2020 (令和2年) 9. 13

牧師 松谷 祐二

〒106-0047 東京都港区南麻布4-5-6 Tel & Fax 03 (3473) 1276  
E-mail church@nanbuzaka.com http://www.nanbuzaka.com/

印刷 有限会社 創文社 Tel (3491) 8321

祈祷会  
第2日曜日 礼拝後  
成人会  
第3日曜日 礼拝後  
婦人会  
第4日曜日 礼拝後  
教会附属 南部坂幼稚園

## 「ダビデへの約束の意味」

牧師 松谷 祐二

### サムエル記下 第七章一～一七節

王は王宮に住むようになり、主は周囲の敵をすべて退けて彼に安らぎをお与えになった。王は預言者ナタンに言った。「見なさい。わたしはレバノン杉の家に住んでいるが、神の箱は天幕を張った中に置いたままだ。ナタンは王に言った。「心にあることは何でも実行なさるとよいでしょう。主はあなたと共におられます。」しかし、その夜、ナタンに臨んだ主の言葉は次のとおりであった。「わたしの僕ダビデのもとに行つて告げよ。主はこう言われる。あなたがわたしのために住むべき家を建てようというのか。わたしはイスラエルの子らをエジプトから導き上った日から今日に至るまで、家に住まず、天幕、すなわち幕屋を住みかとして歩んできた。わたしはイスラエルの子らと共に歩んできたが、その間、わたしの民イスラエルを牧するようにと命じたイスラエルの部族の一つにでも、なぜわたしのためにレバノン杉の家を建てないのか、と言ったことがあるか。わたしの僕ダビデに告げよ。万軍の主はこう言われる。わたしは牧場の羊の群れの後ろからあなたを取つて、わたしの民イスラエルの指導者にした。あなたがどこに行こうとも、わたしは共にいて、あなたの行く手から敵をことごとく断ち、地上の大きい者に並ぶ名声を与えよう。わたしの民イスラエルには一つの所を定め、彼らそこに植え付ける。民はそこに住み着いて、もはや、おののくことはなく、昔のように不正を行う者に圧倒されることもない。わたしの民イスラエルの上に士師を立てたところからの敵をわたしがすべて退けて、あなたに安らぎを与える。主はあなたに告げる。主があなたのために家を興す。あなたが生涯を終え、先祖と共に眠るとき、あなたの身から出る子孫に跡を継がせ、その王国を揺るぎないも

のとす。この者がわたしの名のために家を建て、わたしは彼の王国の王座をそこしえに堅く据える。わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる。彼が過ちを犯すときは、人間の杖、人の子らの鞭をもつて彼を懲らしめよう。わたしは慈しみを彼から取り去りはしない。あなたの前から退けたサウルから慈しみを取り去つたが、そのようなことはしない。あなたの家、あなたの王国は、あなたが行く手にとこしえに続き、あなたの王座はとこしえに堅く据えられる。」

ナタンはこれらの言葉をすべてそのまま、この幻のとおりダビデに告げた。(新共同訳聖書)

イスラエルの最初の王、サウルは戦死し、神の選んだ器、ダビデが王となりました。ダビデ王は外敵との戦いに勝利し、多くの領土を獲得します。ダビデは八人兄弟の末っ子で、家族がゲストを迎えて会食する時にも羊の番をさせられていたような子でしたが、イスラエルの歴史上、もつとも名高い王となりました。まさに、神が宮廷預言者ナタンを通して、「わたしは牧場の羊の群れの後ろからあなたを取つて、わたしの民イスラエルの指導者にした」と仰せになった通りです。

ダビデは、自分の住むレバノン杉作りの立派な家に比べて、神の箱(十戒の石板を取めた、金箔で覆った箱。神の臨在のシンボルとして重んじられた)を収める場所が幕屋(テント)では神に申し訳ないのでは、と心配しました。ナタンも一度は賛意を示します。

しかし神は、それを思いとどまらせる言葉を、ナタンを通して告げられました。

わたしは、出エジプトの時からずっと幕屋を住みかとしてきた、と神は仰せになります。神にとつて、イスラエルはご自分の民。神の導きのもと、神の指し示すところに向かって(地理的にだけでなく、精神的・信仰的にも)旅をし続ける羊の群れ。移動式の幕屋は、その旅をいつも共に歩もうとされる神の姿勢をも表していたのかもしれない。神はこの羊の群れを、(神の言うことを聞かない、頑固で身勝手な羊たちにも関わらず)大切

に守つてこられたのでした。神がそうなさる理由には、先祖アブラハムに、彼とその子孫とを祝福する約束をなされたことがありますが、神がそのようにアブラハムを選ばれたのは、この一族を通して、やがては神から背き去つた人類全体が、神に立ち帰り、祝福にあずかるためでした。

この、人類の代表として神が愛されている羊の群れイスラエルの王に、羊飼いの少年ダビデは選ばれた。つまり、ダビデが王となるとこの一事も、神はわたしたちすべての人間の救いにつながるご計画の中で運ばれたということです。このスケールをもつてダビデを導かれる神に、「お住まいが幕屋では貧相ではありませんか」などと心配するのは、考えてみれば的外れなことでした。「あなたがわたしのために住むべき家を建てよう」というのか。主はあなたに告げる。主があなたのために家を興す。」

そして神は、ダビデと共にいて敵を退け、イスラエルを一つの場所に安住させること、またダビデの子孫が続き、王位を継承していくようにする(「王朝、王家を興す」)ことを約束されました。わたしたちはこれを、イスラエルやダビデ王家という限られた人々への恩典と受け取らずに、アブラハムにも「土地と子孫」に関わることが祝福のしるしとして約束されたことと重ねて読むのが良いと思います。それは、わたしたちすべての人間の祝福につながる、神の大きいなる救済計画の一部なのです。

それにも関わらず、この四百年あまり後、ダビデの王国はバビロン捕囚をもつて崩壊しました。詩編八九編は、悩み苦しみながら、神に訴えます。「主よ、真実をもつてダビデに誓われた あなたの始めからの慈しみは どこに行つてしまったのでしょうか。」(五〇節)

新約聖書の一ページ目、マタイによる福音書の最初の一行が、この切実な訴えに対する、神からの答えになっています。「アブラハムの子ダビデの子、イエス・キリストの系図。…」この「ダビデの子」が、揺るぎない王国、神の国を打ち立てるのです。わたしたちのために。

# 須賀敦子とわたし

道 正 由紀子

好きな作家は？と聞かれたら私は一番に須賀敦子、と答えます。

須賀敦子 (1929-1998) は大学卒業後当時にしては珍しく船でフランスに留学、再度イタリアに渡り書店に勤め、そこで将来の伴侶となるベッピノーと結婚。四年半後、夫の急逝で結婚生活を終え数年で帰国。晩年は作家生活を送り自伝に近いエッセイを残しています。フランス語、イタリア語にもたけていて日本文学、谷崎潤一郎や川端康成の作品を翻訳したり、逆にあちらの詩人サバやユルスナールの翻訳も多数手がけています。

私がどうして彼女に惹かれるか、というと彼女の生きる姿勢、人生であるかもしれない。当時としては思いきった留学、そして自分探し。先のことは思い煩わずそのときを思いきり生きようとするたくましさ。カトリック信者でもありどこまでもまっすぐで愚痴らず黙々と自分の目標に向かい努力を惜しまない様子は尊敬に値します。日本人のおくゆかしさをもちあわせながら積極的に良いことはとりこみ、自分を高めていく姿勢は彼女の著作を読むと伝わってきます。人を差別せずどんな階級の人とも慣れ親しんでしまうので世界中どこでも親友ができてしまいます。彼女の文章は読みやすく誠実、清貧かつおごりいな

い文体でとても好感がもてるのです。

私が須賀敦子を知ったのは二十年前のことで子供たちはまだ高校生、夫は現役でした。

それから二十年、私の信仰生活もほぼそれと同じくらいで、おそらく恵まれた年月であったと思います。それは神様の見えないうちに守っていたいただいた感謝の日々でした。

いつのまにか今の歳になり先のことを考えるより人生をふりかえることの方が多くなってきました。

そんなとき、このコロナ禍で再び須賀敦子の本を手に取り読み残した全集をもう一度じっくり読んでみたいと思ったのです。

二十年間の間に旅した国々、知り合った人びと、泣いたり笑ったりした自分を須賀敦子が自身の作品の中に誘ってくれます。

「ミラノ、霧の風景」は私のお勧めする一冊です。人とのふれあいのなかに沢山の温かみを感じさせてくれる至福の本です。ご興味ある方は是非読んでみて下さい。

また、戦前彼女はこの教会の近く本村町のお屋敷に家族で住んでいたと聞きます。そこから三光町の学校に通っていたそうです。ご存知あるかたがいらっしゃるかもしれません、そのときは教えて下さい。

先人の残してくれたものから得る喜び、神様が満たして下さるシャロームのひとつではないでしょうか。そのことに感謝しつつまたこれから先の人生も歩んでいきたいと思えます。

## 追記

九月五日付、朝日新聞の読書欄に須賀敦子の書評が掲載されていますのでご覧になつてみて下さい。

## 報 告

\*八月中は、毎週、主日第一礼拝・主日第二礼拝を行い、教会学校は主日第一礼拝に合流しました。聖書を読む会は休会としました。

\*南部坂幼稚園では、八月八日(土)から二十三日(日)まで夏休みとし、八月二十四日(月)から保育を再開しました。新型コロナウイルスの影響で年間予定を調整したため、八月二十八日(金)までが一学期、九月一日(月)から二学期です。コロナ禍の中、子供たちとその家庭、教師たちが守られますよう、お祈りください。

\*松谷牧師は、八月十日(月)～二十二日(土)の期間、夏季休暇となりました。八月十六日(日)の主日第一礼拝では大司宣子役員、主日第二礼拝では宍戸信次郎役員が奨励をしてくださいました。

\*新型コロナウイルス対策への対策として、以下の点にご留意ください。  
・礼拝参加者は受付での手指消毒、マスクの着用をお願いします。ただし、マスクは適宜外して調整して下さって構いません。  
・前後左右に一人分ほどの間隔をあけてお座りください。

・各自、飲料をご持参されることをお勧めします。礼拝中も適宜、水分補給をしてください。

・教会学校教師会、成人会、婦人会の開催及び食事については、それぞれの会の判断にお任せします。

感染者数の増加が報じられています。出席に不安を感じる方はくれぐれも無理をせず、ご自宅等で礼拝をお守りください。  
\*月定献金、特別献金、各献金(東京神学大学後援会献金、隠退教師を支える運動、神学生を支える献金、会堂建築献金)へのご協力を、引き続き宜しくお願いします。

\*受洗、信仰告白、伝道者としての献身をお考えの方は、牧師までご相談ください。

《各部報告 八月度》

### 成人会

休会

### 婦人会

休会

